

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>聴覚障がある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応した適切な教育を行い、豊かな心とたくましく生きる力を育てる。</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>1 確かな学力の定着を図る学習指導の充実 2 自立と社会参加をめざしたキャリア教育の充実 3 豊かな自己表現力の育成</p>
---------------------------	---	----------------------	---

年 度 当 初				評 価 結 果 (10)月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
確かな学力の定着を図る学習指導の充実	(地) いろいろな事象に対して興味・関心を広げるために、教材を工夫したり環境を設定したりする。	情報が入りにくいため、様々なことに興味・関心をもちにくい。	①いろいろな事象に興味をもってかかわる。 ②いろいろな事象に興味・関心をもって調べたり尋ねたりする。	○学部で定期的に事例研究会を実施し、共通理解をしながらより良い支援を考える。			
	(幼) 体験的な活動ができる環境や機会を設定する。	経験が不足していたり、情報が入りにくかったりして、興味・関心がせいまい傾向がある。	いろいろな事象に興味・関心を持ってかかわることで、考えて行動したり挑戦しようとしたりすることができるようになる。	○身近な事象に興味を持てるように、掲示物等を工夫する。 ○継続的に興味や関心を持てるような題材を工夫し、体験的な活動の場を多く設定する。 ○自分で考えることができるような教材の提示や声のかけ方を工夫する。			
	(小) 基礎学力が向上するよう、学びへの意欲を高める発問の工夫を取り入れた授業づくりに努める。	教室環境の工夫により学力が定着しつつあるが、文章を読んで質問に答える等の読解力に課題がある。	発問の工夫を取り入れた授業づくりをすることに よって、児童が主体的に学ぼうとするようになる。	○的確な実態把握ができるよう、読書力診断検査等を実施する。 ○授業を見合い発問について検討する事例研究会を行う。 ○授業研究会を行い、一人一人の目標を達成できるよう発問を検討する。			
	(中) 考える力を育む支援の工夫や教科指導の充実によって、主体的に学習しようとする態度を育てる。	学習の定着が課題である生徒、思考力・応用力が課題となる生徒と実態は様々だが、視覚的支援や体験的な活動を取り入れることにより意欲的に学習しようとする。宿題など決められた学習についてはこなすことができるが、課題や疑問に対して自分から調べたり解決したりすることや事前に調べたり学習したりする自主学習ができるまでには到達していない。	学習内容を理解し、課題に対して自ら考え判断し、自主的に取り組もうとする。	○発達検査等、生徒の実態把握を行い、生徒の認知特性に応じた思考を高める発問の仕方や支援方法の工夫に取り組む。 ○家庭学習の内容や生活時間の確認をし、個に応じた学習の仕方を指導する。			
	(高) 自学自習の力をつけるために、個々の生徒に応じた学習指導法の改善・工夫をするとともに、家庭学習の習慣化の徹底を図る。	家庭学習の時間が1時間程度という生徒もあり、家庭学習が習慣化していない実態がみられる。学習への動機づけを行うとともに、日々の授業において、その指導法を工夫し、生徒の主体的に学習に取り組む姿勢を培う必要がある。	家庭学習について、個々の生徒が家庭学習時間と内容の高い目標を設定し、継続して学習できるようになる。	○家庭学習の内容や時間の確認を継続して行い、生徒の学習意欲の喚起を促すとともに個に応じた家庭学習の仕方を具体的に指導する。 ○学部会や教科会などを中心に情報共有し、個々の生徒のつまずきや特性に応じた課題を共通認識し、指導法を工夫する。			
自立と社会参加をめざしたキャリア教育の充実	(地) ①補聴器が装用できるように家庭と連携を図る。 ②通級指導で学んだことが生活に活かせるように家庭や在籍校と連携する。	①補聴器が装用できない乳幼児がいる。 ②自己認識が育っていないため、課題解決に向けた行動を起こしにくい。	①保護者や担当者の支援により補聴器が装用できるようになる。 ②場面に応じて学んだことが活かせるように、家庭や在籍校と連携を取る。	①保護者に補聴器装用の必要性を理解してもらうための機会を設定する。 ②連絡帳を使って情報交換をしたり、授業参観や懇談等の機会を増やしたりする。			
	(幼) 幼児の実態に応じ、様々な人とかかわることができる場を設定したり、かかわり方を支援したりする。	基本的な生活習慣や生活のきまり、遊びのルール等がまだ身に付いていない場面も見られるが、他者とのかかわりを好む。	基本的な生活習慣や生活のきまり、遊びのルール等を身に付けながら、友だちや身近な人と楽しくかかわれるようになる。	○ルールが分かり易く、意欲が高まるような教材や題材を提供する。 ○友だちとかかわる中で、ルールの定着を図ったり意欲を高めたりするような場面を設定する。 ○保護者研修会を実施し、子どもたちへのかかわり方について共通理解を図る場を設定する。			
	(小) 基本的な生活習慣の定着を図り、社会生活における望ましい習慣や態度を育てる。	少しずつルールを守ろうとする姿が見られるようになってきているが、基本的な生活習慣、学校生活のきまり等について自ら判断して守ろうとすることは不十分であり指導が必要である。	基本的な生活習慣が定着し、集団活動においてきまりやルールを自ら守ろうとすることができる。	○合同学活での集団活動の際、モデルを示したり、どう行動したらよいか気づけるような声かけをしたりする。 ○場面をとらえて適切な行動ができるよう声かけを行う。			

様式 2

	(中) 職場見学・職場体験学習・個人面談を通して、中学部以降の進路への意識を高める。	将来に向けた漠然とした夢は持っているが、中学部以降のはっきりとした進路はまだ決まっていない。体験入学や職場体験学習などの具体的場面を通して自分の生き方について考えることができるようになると考えられる。	職場見学・職場体験学習を通して、社会生活に必要なマナーやルールについて知り、実践しようとする。	○ソーシャルスキルトレーニングを通して人との関わり方を知り、社会生活に必要なマナーが身につくよう指導する。 ○職場体験学習の際には、一人一人の成果と課題を明確にし、生徒と進路について話し合う時間を持つ。 ○高等部や将来の具体的な情報を提供したり今何が必要なのか考える場面を設定したりするなど具体的な学習内容を計画する。			
	(高) 常に社会自立を意識できる生徒指導の徹底を図り、課題対応能力やキャリアプランニング能力を育成し、規律ある生活習慣を身につけられるようにする。	ほとんどの生徒はきまりを守り生活できているが、一部生徒に精神面に課題があり、時間規律が身につけていない実態もある。また、まず自分で考えて行動する習慣が身につけていない現状もあり、社会自立に向けてさらに自ら考え行動する生活習慣の確立を目指す必要がある。	①将来の社会生活を意識しながら、規律（時間・言葉づかい・服装）を守り、学校生活を送る。 ②社会自立のための自己の課題を知り、主体的に解決しようとする。	①生徒が課題意識をもって生活できるように、全教職員で共通認識し、指導を周知徹底する。 ②諸検査を通して、自己を客観的に把握したり、「課題対応能力」や「キャリアプランニング能力」に関する生徒版段階表を作成し、自己を見つめ、身近な課題を目標に設定させる。			
	(地) ①個々の発達に応じて言葉の獲得・拡充を図るように親子のかかわり方を支援する。 ②学年に応じた話し方・聞き方のルールが分かり、話す・聞く力が身に付くようにする。	①子どもとやりとりする姿があまり見られない保護者があり、かかわり方の支援が必要である。 ②話を聞く時、注意喚起が必要な児童がいる。	①自分の思いを指さしや手話、言葉で伝えるようになる。 ②話す・聞くのルールを意識して自分の思いや考えを伝える。	①子どもが保護者とやりとりしながら自分の思いを伝えることができるように場を設定し、かかわり方を支援する。 ②学年に応じた話し方・聞き方のルールを設定し、確認する。			
	(幼) 心の動きを大切にし、表現力を高める指導を工夫する。	自分の思いを伝えたい気持ちはあるが、その気持ちを伝えることが難しい場面が見られる。	朝の会の伝え合い活動で幼児が思いを表出できるようになる。	○幼児の思いをくみ取り、表現できるように支援する。 ○話しかけが理解できるように実物や絵等を提示する。 ○話し合いの場等を設定し、自分の思いを伝えたり、友だちの思いをくみ取ったりする場面を設定する。			
豊かな自己表現力の育成	(小) 友だちとの活動を通して自分の思いや考えを伝え合える力を育てる。	①自分の考えを友だちや先生に主体的に伝えようとする場面が増えている。 ②自分の思いを周りの人に伝えようとする気持ちはあるが、言葉を正しく使って表現することが未習得である部分がある。	①自分の経験や考えを、様子や気持ちを表す言葉を使って詳しく伝えようとする。 ②相手の話を最後まで聞き、自分の考えを伝えようとする。	①合同学活等の集団での時間において、友だちや先生と伝え合う学習場面を多く設定する。 ②帰りの会等において、ヒントになるような声かけをしたり、気持ちを表現する言葉カードを掲示したりする。			
	(中) 様々な集団活動において伝え合い活動を工夫し、生徒の自分の思いを伝えようとする意欲を高める。	自分の思いを伝えたい気持ちはあるが、語彙力や表現力が弱い傾向があり、周囲の状況を把握し相手の思いを推し測って発言するという積極的なコミュニケーションには至っていない。	自信を持って自分の思いを相手に分かるように表現する。	①様々な報告会、弁論大会、劇等を通して、自分の思いを豊かに表現する機会を持つ。 ②語彙力や表現力を高めるために、掲示物などの言語環境を整える。 ③話し合いの際には、「話し合いのオキテ」を意識し、相手にわかるように表現できるようにする。			
	(高) 現場体験学習等を活用し、社会を意識した体験的学習を充実させるとともに、演劇や帯自立活動等を活用し自己表現力を育成するなど、コミュニケーション力を身につけることができるようにする。	実際に仕事を進めたり、職場の人間関係を円滑にしたりするためのコミュニケーションが必要であることを具体的に生徒が理解できていない実態もある。そのために自己表現力を高めるなど自ら積極的にコミュニケーション力を身につける必要性を実感できるようにすることが課題である。	①現場体験学習等で相手や場に応じて適切にコミュニケーションをとる力が向上する。 ②帯自立活動をはじめ、劇や手話パフォーマンスを通して、表現力が向上する。	①具体的な場面を想定して事前に練習を積み、実際の場面で活かすようにする。 ②状況に応じた日本語の使い方（謙談語・尊敬語）や意味の学習を積み重ねることで、一人一人の日本語力を伸ばす。また、劇の練習では日本語や役の心情、物語の内容と合う適切な表現やよりよい表現について、考えながら練習を進める。			

評価基準 A：十分達成（100%） B：概ね達成（80%） C：変化の兆し（60%） D：まだ不十分（40%） E：目標・方策の見直し（30%以下）